

※会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。 ※カタログに記載された内容および製品の仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。
 ※本カタログの記載内容は2015年12月現在のものです。 ©2015 OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.LTD.ALL rights reserved.

クラウドを軸にシステムの基礎固め

経営を支える管理部門の 基盤が整う

奉行*i8* for クラウド 導入モジュール

- ▶ 人事奉行*i8* for クラウド
- ▶ 給与奉行*i8* for クラウド
- ▶ 勘定奉行*i8* for クラウド
- ▶ 支払管理 for勘定奉行*i8*シリーズクラウド
- ▶ 入金管理 for勘定奉行*i8*シリーズクラウド

先駆技術で未来を創る
株式会社 オービックビジネスコンサルタント
 URL <http://www.obc.co.jp>

販売代理店

〈東 京〉〒163-6032	東京都新宿区西新宿6-8-1 住友不動産新宿オークタワー	TEL.03(3342)1880(代)	FAX.03(3342)1874
〈札 幌〉〒060-0003	札幌市中央区北三条西4-1-1 日本生命札幌ビル6F	TEL.011(221)8850(代)	FAX.011(221)7310
〈仙 台〉〒980-0811	仙台市青葉区一番町1-9-1 仙台トラストタワー20F	TEL.022(215)7550(代)	FAX.022(215)7558
〈関 東〉〒330-0854	さいたま市大宮区桜木町1-9-6 大宮センタービル7F	TEL.048(657)3426(代)	FAX.048(645)2424
〈横 浜〉〒220-0004	横浜西区北幸1-11-15 横浜STビル7F	TEL.045(322)0922(代)	FAX.045(322)3648
〈静 岡〉〒420-0857	静岡市葵区御幸町11-30 エクセルワード静岡ビル5F	TEL.054(254)5966(代)	FAX.054(254)5933
〈金 沢〉〒920-0853	金沢市本町1-5-2 リファール5F	TEL.076(265)5411(代)	FAX.076(265)7068
〈名古屋〉〒460-0003	名古屋市中区錦1-16-7 NORE伏見ビル7F	TEL.052(204)3350(代)	FAX.052(204)3354
〈大 阪〉〒530-0018	大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル23F	TEL.06(6367)1101(代)	FAX.06(6367)1102
〈広 島〉〒730-0032	広島市中区立町2-27 NBF広島立町ビル4F	TEL.082(544)2430(代)	FAX.082(541)2431
〈福 岡〉〒812-0039	福岡市博多区冷泉町2-1 博多紙園IM-SQUARE 9F	TEL.092(263)6091(代)	FAX.092(263)6099

先駆技術で未来を創る
株式会社 オービックビジネスコンサルタント

奉行i8 for クラウド 導入事例

株式会社カジタク

■株式会社カジタク <http://www.kajitaku.com/>
 売上高…55億8,000万円(2015年2月期)
 従業員数…127名(2015年2月末時点)

2008年8月設立。11年にイオングループ傘下に入る。炊事や洗濯といった家事全般の代行サービスをパッケージ化した商品を小売店に販売。イオングループ各社の店頭で販売されるほか、ホームページを通じて個人顧客からの受付もしている。現在は、ハウスクリーニング業務や宅配クリーニング業などにも着手し、業務を拡大している。コピーサービスや写真プリントなどの店頭支援事業、マンション内の住居者向けハウスクリーニング等のマンションコンシェルジュ事業も手掛ける。



クラウドを軸にシステムの基礎固め

経営を支える管理部門の基盤が整う

課題

- ① 事業拡大により債権債務管理業務の煩雑さが深刻になり、業務の省力化が急務に。
- ② 限られた役員や人事担当の主観による属人的な人事からの脱却とノンコア業務の効率化。

効果

- ① 煩雑な手作業かつ個別エクセル管理による債権債務管理を消込・仕訳作成という一連の業務が消込チェックによる効率化とデータの一元管理を実現。
- ② 働き方・雇用形態が多様化する中、従業員情報の効率的な管理とノンコア業務の完全外注化を実現。

▶ 導入前の課題

経営計画を支える管理部門の強化が必須に業務の効率化と属人的な人事管理からの脱却が課題に浮上

株式会社カジタクは、設立8年目となる2015年、順調に成長を続けてきたものの、成長余地のある市場とみて、参入または検討する企業が増えつつあり、同社の取り巻く環境はますます厳しさが増してくるものと考えていた。このような環境の中、収益を伴い成長を持続するための経営基盤構築に向けて、成長ステージに応じた改革・改善が各部門で取り組まれていた。特に収益部門をサポートする管理部門は、「人事および経理業務の効率化」と「属人的な人事業務からの脱却」が目下の課題であった。

1つ目の課題には、同社の顧客の変化が背景にある。設立以来、サービスをパッケージ化した商品を小売店に納品するというB to Bの取引が主だったが、昨今、ウェブサイト等を通じた個人(エンドユーザー)への直接販売も増えるようになり、2015年の個人顧客数は前年の6倍に膨れ上がった。これにより、少額の取引件数が増え、補助科目では対応しきれなくなり、今後さらに債権債務管理に負担がかかると予想されたのだ。

2つ目の課題の背景には、人事情報を経営に活かされていない現状があった。同社はエクセルで管理する人事台帳はあったが、氏名・生年月日・住所といった基本情報の掲載しかなく、過去の異動歴や得意分野などの情報は、限られた役員の記憶や過去のデータをその都度探すという状況であった。

同社ではこれまで、顧客の利便性やそれを直接的に支える業務を優先的にシステム化してきたが、小さな本社・管理部門を実現し続けていくとともに、情報を戦略的に活かすことをコア業務にしていこうという転換期を迎えていた。

▶ システム選定のポイント

既に導入済みだったMicrosoft Azureの基盤を活かしてクラウド版を選択 情報連携による省力化・ミス軽減を評価

戦略的にシステムを活用し、組織力・管理体制を強化していくと決断した同社。経理部門では、2008年から勤定奉行21を使用しており、奉行21Ver.4、奉行21Ver.5、奉行iと刷新してきた経緯がある。今回も奉行i8シリーズへのバージョンアップを想定していたが、最終的に奉行i8 for クラウドを選択した。同社はシステムを稼働させた2009年から、マイクロソフトのクラウドプラットフォームであるMicrosoft

Azure(当時はWindows Azure)を導入して運用。初めは奉行i8へのバージョンアップを検討していたが、ちょうどその時にOBCのクラウドサービスが発売されると聞きつけ、それならば、もともとあるプラットフォームを活かして運用しようという結論に至った。

さらに同タイミングで支払管理と入金管理のオプション、人事奉行i8 for クラウド、給与奉行i8 for クラウドを新たに導入し、人事および経理業務のシステム化を矢継ぎ早に再構築した。

「奉行シリーズ以外のシステム導入は念頭がありませんでした。奉行製品は使い勝手が良いということもありますが、システムを同シ



執行役員 管理本部担当 丸尾 健太郎氏

● システム概要図



システムのポイント

導入済みのクラウドプラットフォームであるMicrosoft Azure(パブリッククラウドサービス)に、クラウド環境専用パッケージの奉行i8 for クラウドをインストール。勤定奉行i8 for クラウド、支払管理オプション、入金管理オプション、人事奉行i8 for クラウド、給与奉行i8 for クラウドはすべて3ライセンスで運用する。会計士事務所や給与計算をアウトソースする委託会社ともクラウドを通じてリアルタイムで情報をやり取りしている。

リーズで揃えることで、会計・人事・給与のデータがきちんと連携し、内部統制上も良いと考えたからです。奉行製品のラインナップが豊富だったおかげで、当社が求める理想に近づけたと思っています。」(株式会社カジタク 執行役員 管理本部担当 丸尾健太郎氏)

▶ 導入効果

オプションとの組み合わせで債権債務管理のシステム化に成功 操作性の良さと効率化・省力化・標準化を実現

まずは経理部門の効果だ。奉行i8へのバージョンアップで可能となった取引先のマスター作成、さらに支払管理オプション・入金管理オプションを組み合わせることで、課題として上がっていた債権債務管理をシステム化することに成功した。銀行データとの連携(入金・支払)や入金・支払予定表などの管理に至るまで、煩雑な業務の効率化を実現した。それまでは勤定奉行の補助科目で管理しており、全国の協力会社300社以上分の請求先、支払先、金額をひとつひとつ手入力して確認する作業が必要だった。扱う金額は、大きいところで1,000万円以上、少額のところで1万円以下と差が大きく、打ち間違いや確認ミスがゼロではなかった。同社基幹システムともデータが連

携し、人の手が介入する場面が減ったため、効率性・正確性が上がった。

人事・給与部門でも新規に作成した人事台帳が効果をもたらし始めている。直近で行った組織改編には人事奉行で作成した人事台帳を活用。データのスピーディーな確認も実現している。「当社は扶養家族になっているパート・アルバイトが多く、年の後半になると自分がどのくらい稼いだか、103万円を超えそうかどうかなどの問い合わせが多く寄せられます。今までは給与計算の委託会社に都度問い合わせていましたが、今はボタン一つで年末調整の項目から数字を見ることができ、シフトの調整が必要かどうかをすぐに確認できます。」(丸尾氏)

さらにクラウド環境を活用したことで、物理的な行き来が少なくなり、アウトソーシング会社や会計士事務所とのやり取りもクラウド上でシームレスに行うことができている。

▶ 今後の展望

システムを使い少人数で生産性を上げ、コア業務とノンコア業務の継続的な改善・改革 制度改正対応にOBC業務サービスも活用

今後の管理部門のミッションについて丸尾氏は、「持続的に勝ち続ける企業は、継続して変化対応や自己改革し、それを促す上で意思決定やその実行に必要な情報と解決策を発信していかなければなりません。例えば債権債務を管理するだけにとどまらず、キャッシュコンバージョンサイクル(代金がキャッシュになるまでの日数)をどれだけ短縮できるかということも管理部門の役割と考えています。また今回、人事情報の一元化を実現できたことで、今後の環境変化に対応する組織設計や人材配置を柔軟かつスピーディーに実行していきたいです」と語る。また、「マイナナンバーやストレスチェックが本格化するこれから、当社ではOBCの業務サービスも活用します。OBCはシステムを軸に様々なサービスを展開しているので、奉行製品をそろえれば間違いなくデータの連携もできます。これは効率化・省力化・標準化の実現につながり、大きなメリットがあります」と評価する。

同社は奉行i8 for クラウドをベースに管理部門の強化を図り、長期的な経営計画を実現する土台を固めている。(以上)